

## 1 税制について (1) 税額・税率

意見	対応方針
<p><u>低価格帯の宿泊施設、小規模事業者への配慮</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低額な宿泊施設に対する税率を見直す必要がある。</li> <li>案として、長崎市の税率(1万円未満 100 円)を参考に検討してはどうか。</li> <li>・小規模事業者をいかにして救済するか、柔軟に考える必要がある。</li> <li>・宿泊料金の安い事業者に対してはもう少し配慮があっても良い。</li> </ul> <p><u>税額・税率は現状で継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入後新型コロナの影響が広がり、状況の変化が激しい。何か変更するには適切ではなく、推移をよく観察していくことが妥当である。</li> <li>・制度としてはまだ始めたばかりであり、引き続き様子を見ていくという考え方に賛成である。</li> </ul> <p><u>検討について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負担できる能力によって負担度合いを調整するという考え方は当然あるべき。宿泊施設の競争状況等に応じて5年毎に基準を見直していくこともあって良い。</li> <li>・税率を変更するにはどの金額が妥当かは相当ヒアリングが必要。負担が一律である定率という考え方もあるが計算上の難しさがあるため、金沢の実情に合っているのかを踏まえて検討する必要がある。</li> <li>・市内の宿泊事業者の数や質は変化しており、その分布がどうなっているかを踏まえて検討するのが妥当である。</li> </ul>	<p>議事にて対応</p> <p>【資料2】 宿泊税導入自治体の税率設定の考え方及び制度見直しの検討状況</p> <p>【資料3】 税率の検討</p>

# 1 税制について

## (2) 課税免除

意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"><li>・現状のままで良い。</li><li>・修学旅行については、補助金という制度を維持していけば問題ない。</li><li>・免除にするよりは補助で対応していくのが実務負担的にも一番簡便である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・現状のまま課税免除は設けない。</li><li>・修学旅行への補助は継続し、制度の周知を図る。</li></ul>

## (3) 申告・納入

意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでやってきて現状で問題ない。</li><li>・電子納入の手続きを進めてほしい。</li></ul>	電子申告納入に対応し、周知を図る。

## 2 使途について

### (1) 使途とその周知

#### 使途についての意見

- ・税金であるため、一つ一つの個人や事業者ではできないような、皆にとって必要であり、地域全体の価値を高める取組に付けた方が良い。
- ・日本で初めて伝統環境保存条例を作った金沢が、税収の使途の目的の一番に、まちの個性に磨きをかける歴史、伝統、文化の振興を図る政策を掲げているのは、とても良いことでありこの方針を貫いてほしい。
- ・宿泊税をどう使うかが極めて大事である。法定外目的税であるため、目的を絞って、総花的にならずにシンボルのようなものに大きく使うことがあっても良い。
- ・交通混雑の改善や訪れる人にマナーを守ってもらうことは、市民生活にとっても必要な措置である。
- ・宿泊施設の改修補助対象は一律の方が良いが、個別の事業者の事業に使うのは、あまり筋は通らない。激変緩和措置としては意味があったが、長く続けることではない。
- ・金沢港にも4,000人規模のクルーズ船が来ているが、県と市がタイアップし、金沢の文化、観光、魅力を知ってもらうために使えると良い。
- ・金沢の文化、歴史を知ってもらうため、目に見えるようなものを、また実感として体験できるようなものを考えると良い。例えば、「まいどさん」をもっと増やす、英語をはじめ多言語に対応できる方を増やしていく、英語のできる観光タクシーを増やしていく等。
- ・インバウンドの求める観光の在り方は、アドベンチャーツーリズムとサステナブルツーリズムである。中でも、脱炭素、脱プラスチックを求められる。具体的な提案として、客室のアメニティをバイオマスを使ったものに切り替える際の支援を考えてほしい。

#### 対応方針

3つの方向性を継続する。具現化に向けて、市で情報共有し、予算編成の過程等において検討する。

## 使途の周知についての意見

- ・使途が明確に知られていない。分かりやすい説明を繰り返すことによって理解が深まり、説得力が出てくる。
- ・宿泊税への理解を進めるようなことをした方が良い。
- ・何に使われているかはっきり見えやすくするための工夫が必要。使いみちをアピールできれば払う側や市民の理解も深まっていくのではないか。
- ・金沢というまちがどのように文化、景観、環境を守ってきたのかを宿泊税がどう還元されているかを通じて、金沢の良さや魅力をアピールすれば、宿泊税についても浸透するし、納得感も高まるのではないか。
- ・良いことに使われていても市民が分かっていない。市民に周知することが大切である。
- ・皆で文化を守り、このようなクオリティを皆さんが享受できているということを、訪れる人にも伝えていく。訪れる人が増えていくことに皆で対応していかなければならず、それについて計画性を持って、きちんと使うために必要だという説明ができることが重要である。

## 対応

議事にて対応

【資料4】使途とその周知について